

今後の店舗展開について



枚方市選挙区 総代
橋 良重さん
枚方公園店
がオープンし
て4年。店長
をはじめ、店
員一同組合員

の要望に応えようと努力されている姿をよく目にします。ただ、店舗の会議室は、学習会や商品フェアなどをやるには狭く、人数制限が気になってなかなか活動しにくいのが実情です。今後新店舗を展開する際は、活動の幅が広がるように、みんなの希望にそったスナックで夢のある店舗展開を望みます。

子育て世代に寄りそった支援に關わって



大阪8選挙区 総代
川上 朋美さん
常設型子育て
広場、パル
ちゃん広場す
くすく、は、
清潔で安心し

て遊ばせることができる場所として喜ばれています。最近では、地域のつながりや他の親子と接する機会が少ない育児休暇中のお母さんの参加もあり、貴重な友だち作りの場にも。これからも、育児の不安や悩みを共有でき、親子の成長を共に喜べる子育て世代に寄りそった支援を広げていきたいです。

私は地域の組合員パートナー



大阪D選挙区 総代
矢賀 幸子さん
数年前ママ
友達にお勧め
をお裾分けし
た時、お返し
い、どこで買

ったの？と聞かれ、生協の安心・安全な商品や便利さを紹介したところ、加入してもらえました。赤ちゃんがいるから買い物大変だったけど、楽になったし便利。ありがたごとと言われ、人に勧めるのが楽しくなりました。組合員パートナーのシステムを利用し、これからも地域に仲間を増やしたいです。

個人ピックに感謝



豊屋川市・守口市・門真市選挙区 総代
浪越 スエノさん
長年、共同
購入をしてい
ますが、明細
書を見て荷物
を分けるのは

苦労がいろいろありました。数年前から個人ピックが始まりました。この6月1回からは野菜も、「ニール袋がもったいない」という欠点は「ゴミ捨て用にしたらいっぱいを取ってリサイクル」「交流」という点では、週に一度顔を合わせて世間話や商品の話しもできます。荷分け間違いもなくなり本当に感謝しています。

安心して生協商品を買っていただくために



豊屋川市・守口市・門真市選挙区 総代
久保田 操さん
添加物・農
薬などの検査
や、いち早い
放射能測定器
購入による放

射能検査によって、私たちは安心して商品を購入できます。また、不具合があったら購入履歴があるので、知らせていただく安心です。そして産地やメーカーの方々に実際にお会いすることで、商品に安心感や愛着がわきます。今後も、安全確認と産地、メーカーとの交流を大切にすることを願っています。

生協の付加価値



大阪A選挙区 総代
若本 幸子さん
生協の目に
見えない価値。何事もあ
きらめず誠意
を持って善処
すること。次に、生産者の生産意欲・組合
員の購入意欲のサポート。生産者間を
つなぐとくみや商品について、考え
あつての提供など。生産者・組合員・
生協がお互いを尊重し、つながりを感じ
られるのも生協の価値だと感じます。

また、会場発言以外にも40名の総代から、組合員活動、くらし・平和、共同購入・店舗、震災支援、エネルギー政策、福祉について意見が寄せられ、文書で配布されました。

ごあいさつ

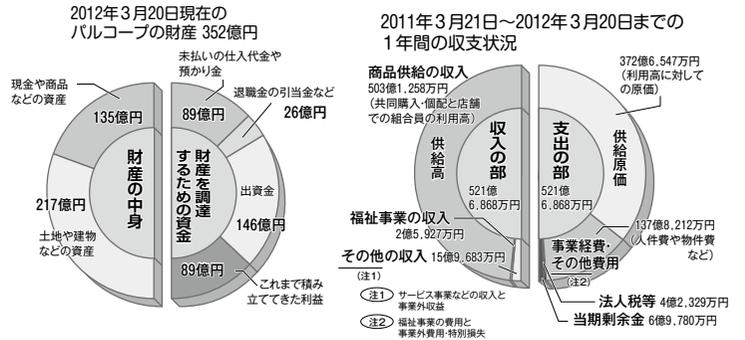


東日本大震災から1年3カ月が経ちました。昨年度バルコブは、震災支援と事業活動をしっかりとやっていくとお約束し、厳しい情勢の中、組合員さん・お取引先にも応えていただいていたという自負を皆さまと共有させていただきたいと思ひます。

食の安心・安全で見ると、放射能の問題は深刻な問題を提起しています。生産者や組合員の皆さんと学習し、正しく怖れることが大事です。放射能・放射性廃棄物は、自然生成物のように土に返らず、自然サイクルで解決できません。原発に頼らないエネルギーを考えることは不可欠なことだと思ひます。

今年、国連が定めた国際協同組合年です。格差を生み出し、対立と分断を生む競争社会ではない、共生社会の担い手として、協同組合に期待が寄せられています。私たちは協同組合の理念のもとに、地域に根ざし組合員さんのくらしに役に立ち、少しずつでも前進していきたいと思ひます。
(理事長・糸田 喜代隆)

2011年度 事業の結果



億円未満の端数を切り捨てていますので、左右の合計は一致しません。

万円未満の端数を切り捨てています。

発言を受けての理事会のまとめ(要旨)

会場発言・文書発言を含め52件いただきました。議案をさらに豊かにする内容を受け止め6点についてまとめとさせていただきます。個別で具体的な活動要望について、その真意に応えられるように深め、今年度の事業で努力していきます。

生協の付加価値について

商品検査は、組合員さんとともに生産者の皆さんの商品づくりのためでもあります。行政とあわせてダブルの検査となる放射能検査は、被災地産地を守ることに必要です。生産者・メーカーさんとの交流は、組合員さんにとって誰がどんなふうに住んでいるのか、生産者の皆さんにとっては「組合員さんがどう感じているのか」が大切な機会となります。信頼が安全の根本であり、組合員さんの豊かな食卓と産地での生産意欲・後継者継続、地域での働く場の確保につながります。組合員さん・職員・生産者の皆さんの三一体で生協の事業の原点を強めていきます。

共同購入について

「個人別仕分けや調味料が毎週買えるのが助かる」と評価いただきました。人口減少・高齢化・所得減少・共働きの増加など、くらしの変化の中で、安全なおいしさを前提としながら、世代ごとにある改善を、すすめてまいります。また、夕食サポート事業について、今年度中に全エリアへ展開しながら、さらに研究をすすめます。

店舗について

新店への期待をいただきました。大阪市内への出店は生半可なことでは事業成立できないと考えています。普段の食を買っていただけれる売場を確保することを第一に、事業成立を前提としながら、生協のしくみを店にも、地域の組合員さんとともに考えてまいります。

エネルギー問題について

原発に依存しないエネルギーへの転換は、福島原発事故から見れば自明のことです。しかしこのことは、私たち一人ひとりが自ら考え判断することが大事です。組合員さんが考えを行動できるように、学習会や情報提供を今後も行います。また事業者として、節電・省エネルギー対策をすすめる、太陽光パネルを、可能な事業所から有効性の高さを図り、設けていきます。

組合員さん同士の活動について

おたがいのさまの活動は、まさに生協の理念を体言った活動だと思ひます。多岐な状況で困っている人が増えるなかで、切実に活動する人を広げたいとの発言を受け止めています。活動のあり方や組合員さんへの周知宣伝のあり方を組合員活動委員会とと考えていきます。

被災地支援について

引き続き、被災地へ行く支援として、この大阪で「忘れられない意思」を強く打ち出していきたいと考えています。組合員さん参加のボランティアバスを年17回実施し、地元経済の復興を応援できる商品の企画を行います。